

学部規模でのポジティブ行動支援  
(SWPBS)  
「中学部行動目標設定表」を  
用いた教育実践

すてきな伝え方をしよう 編

# 1 中学部の現状

(教育課程)

## 1) 中学校に準ずる教育課程

- ・肢体不自由単一学級
- ・病弱単一学級

## 2) 知障代替の教育課程

- ・肢体不自由重複学級
- ・知的障がい学級
- ・病弱重複学級

## 3) 自立活動を主とした教育

- ・肢体不自由重度重複学級
- ・病弱学級の重心病棟学級

(R2年度)

11学級	生徒数	47名
	教員	30名程度

3つの教育課程があり、  
障がい種も多い

学部教員全員での支援  
体制や共通理解が大切



平成30年度より  
ポジティブ行動支援(SWPBS)  
を実施

# 実践研究に至るまでの経緯

H30年度～ 登校支援

- ・不登校生徒と担任を学部全体で支える体制作り
- ・生徒が安心して自信をもって楽しく過ごせる学部づくり

チームで話し合いを進めて支援方法を検討して共通理解を行うシステムの定着



チームでの話し合いの枠組みを利用して、学部全体(教員・生徒)で共通の目標に取り組むことを決定



R元年度 学部全員の教員で話し合いを行い  
【中学部版】 行動目標設定表 を作成

# 【中学部版】

## 行動目標設定表

全教員で意見を出し、将来に向けて生徒たちに身につけさせたい力をまとめて作成  
(全障がい種別対象)

3つの大切  
「ルールを守ろう」  
「すてきな伝え方をしよう」  
「チャレンジしよう」

R2年度に3つの中のどのテーマで取り組むかを学部教員で話し合いを行い、  
「すてきな伝え方をしよう」に決定

行動目標設定表

R2.4.15

	ルールを守ろう	すてきな伝え方をしよう	チャレンジしよう	
授業中	知的 病弱 肢体	・時間を守ろう (始まり・終わり・作業時間) ・決められた活動をしよう	知的 病弱 肢体	・「です」「ます」を使おう ・援助要求をしよう
	知的 病弱 肢体	・自分で目標を決めて達成しよう ・自分の意思を伝えよう (挙手・カード選択)	知的 病弱 肢体	・対象物(教材等)に手を出そう ・発声しよう
給食	知的 病弱 肢体	・適切な姿勢で食べよう ・手や口を清潔にしよう	知的 病弱 肢体	・選択をしよう (タブレット・具体物に手を伸ばさず・視線を向ける)
	知的 病弱 肢体	・苦手な食材も食べてみよう ・自分から準備や後片付けをしよう	知的 病弱 肢体	・「いただきます」「ごちそうさま」を伝えよう ・手伝ってもらったら感謝の気持ちを伝えよう
休み時間	知的 病弱 肢体	・完食しよう	知的 病弱 肢体	・「食べたい気持ちを伝えよう (手を伸ばさず・視線を向ける)
	知的 病弱 肢体	・トイレをすませて遊ぼう ・人と適切な距離をとろう	知的 病弱 肢体	・「ありがとうございます」「ごめんね」「一緒にしよう」を伝えよう ・教室から出るときは行き先を伝えよう (トイレ・次の授業)
登下校 (朝の会・帰りの会)	知的 病弱 肢体	・トイレに行こう ・水分補給をしよう	知的 病弱 肢体	・いろいろな友達や先生と関わろう ・いろいろな遊びをしよう
	知的 病弱 肢体	・遊びを選択しよう (手を伸ばさず・視線) ・教員の働きかけに対して応答しよう (発声・目をばちばち・快の表情)	知的 病弱 肢体	・遊びを選択しよう (手を伸ばさず・視線を向ける) ・教員の働きかけに対して応答しよう (発声・目をばちばち・快の表情)
登下校 (朝の会・帰りの会)	知的 病弱 肢体	・朝・帰りの準備を時間までにしよう ・話をしている人の方を向こう	知的 病弱 肢体	・名前を呼ばれたら返事をしよう ・友達や先生に「おはようございます」「さようなら」を伝えよう
	知的 病弱 肢体	・自分のできることを増やそう ・目標を決めたり振り返ったりしよう	知的 病弱 肢体	・あいさつをしよう (発声、ハイタッチ、笑顔、アイコンタクト)
登下校 (朝の会・帰りの会)	知的 病弱 肢体	・朝の会・帰りの会に係の仕事をしよう (スイッチ)	知的 病弱 肢体	・クラス外の人とあいさつをしよう

## 2 本校における SWPBS

令和2年度

平成30年度～登校支援

組織的アプローチで取り組む

**第1層支援**  
学校・学級規模  
全体支援  
(全生徒対象)

**第3層支援**

特別な支援を必要とする個人

**第2層支援**

配慮の必要な一部の生徒



### 3 実践研究の目的・ねらい

- ・学部全体(教員・生徒)で共通のテーマ(目標)  
「**すてきな伝え方をしよう**」で指導に取り組む
- ・全生徒の支援を実施する
- ・生徒へのフィードバックでより効果的な指導を行う



中学部全生徒のコミュニケーション力の向上を目指す

## 4 研究の実施方法

後期「個別の指導計画」において、全教員が  
行動目標設定表より「**すてきな伝え方をしよう**」  
に関連する項目で目標設定して実践

- ・記録をとりながら指導  
→記録をもとに学部研修(事例検討会)において  
チームで討議
- ・障がい種別のチーム編成で討議を実施

**※事例検討会は1時間以内で実施**



## 6 実践のための事前準備

(実践開始前の学部研修で行ったこと)

### 1) 学部全員の教員の話し合いで実施方法を決定

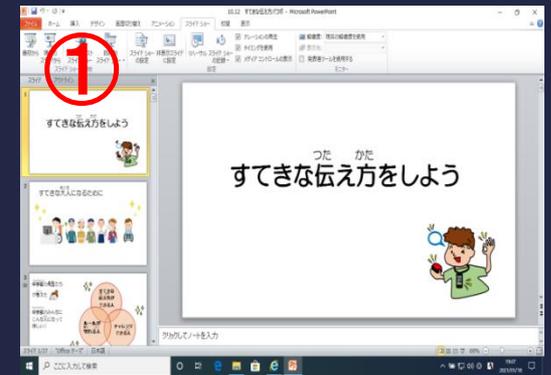
- ・賞のネーミング → すてきde賞
- ・表彰の場面と方法 → 集会(リモート)で2つの教室で表彰
- ・開催数と称賛人数 → 3週間に1回程度, 1回につき6名
- ・学部全体で共有するための掲示物等  
→ すてきな伝え方の木を設置

### 2) 研究のスケジュールの提示

(見通しを持って, 取り組めるようにするため)

### 3) 実践前の教材等の準備

#### ① 生徒説明用スライド

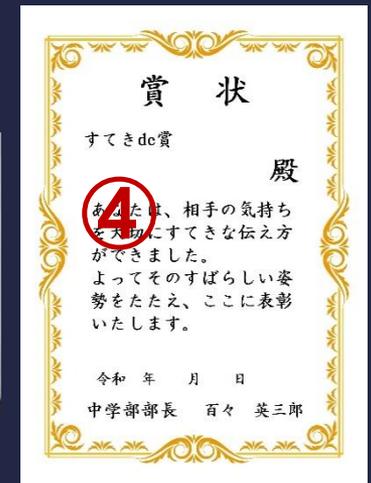


#### ② 事例研究会記録シート

R2 研究会記録用紙	
期	年 月 日
1) 事例について (学年 (25年度))	
① 現在事例 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100)	詳細
② 現在の〇の行動 (記録や自注の語を削いで記入)	
③ 目標を達成するための支援や手立てのアイデア (異時異所) ④ 教材教具や環境設定、観察の仕方	
⑤ ほかの方	
2) 生徒のよかったところ (すてきな伝え方) をグループで共有 (※事例共有はしない)	

#### ③ 「すてきな伝え方」の木

- ・ 学部共有のホールに掲示
- ・ 生徒のすてきな伝え方ができた場面を葉っぱに記入して貼る



#### ④ 「すてきde賞」賞状

## 7 事例検討会の実施

### ・第1回事例検討会【10月22日】

#### 障がい種別の5グループで実施

(1) 各教員が持ち寄った記録表を見ながら  
自分の事例について報告

[1グループ 4~6人]

(2) グループの代表事例を決定

\* (1)~(2)で約25分間

# (3) 代表事例について記録用紙に沿って事例検討

**\* (3) で約20分間**

## 1) 事例について

- ① 現在の目標
- ② 現在の○の行動

R2 研修会記録用紙	
班	R2 年 10 月 22 日
1) 事例について (学年          インシャル表記 A )	
① 現在の目標 (個別の指導計画・後期の目標を記入)	評価
丁寧な言葉で要求を伝えることができる。 → 討議の結果, 熱をはかるときに場面を限定	
② 現在の○の行動 (記録や担任の話を書いて記入)	
・熱をはかるときに「○○先生, はかってください」と言えるようになってきた。	

事例2の記録用紙

### ③ 目標を達成するための支援やアイデア

☆教材教具や環境設定, 教示の仕方

☆ほめ方

## 2) 生徒のよかったところ(すてきな伝え方)をグループで共有

③ 目標を達成するための支援や手立てのアイデア	実施有無
<p>☆教材教具や環境設定, 教示の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・熱にフォーカスして記録をとってみる。(給食を減らしてほしいとき, 着替えのときetc)</li><li>・ベースラインは<u>声かけのみ</u>, 「何て言うんだった?」 Step1 月目標のみorカードとかで言えるかどうか見る ここで言えたら達成 Step2 月目標なし or カードなしでもできるかどうか</li><li>・熱で成功したら別のことで</li></ul>	有 有
<p>☆ほめ方</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・逆模倣「○○先生はかっってください」って言えたね!と 言って褒める</li><li>・月目標のポイントで喜ぶ</li></ul>	有

# ・第2回事例検討会【12月10日】

iPadを使ってグラフの作り方の説明 約10分

その後記録用紙に沿って話し合い \* 約40分間

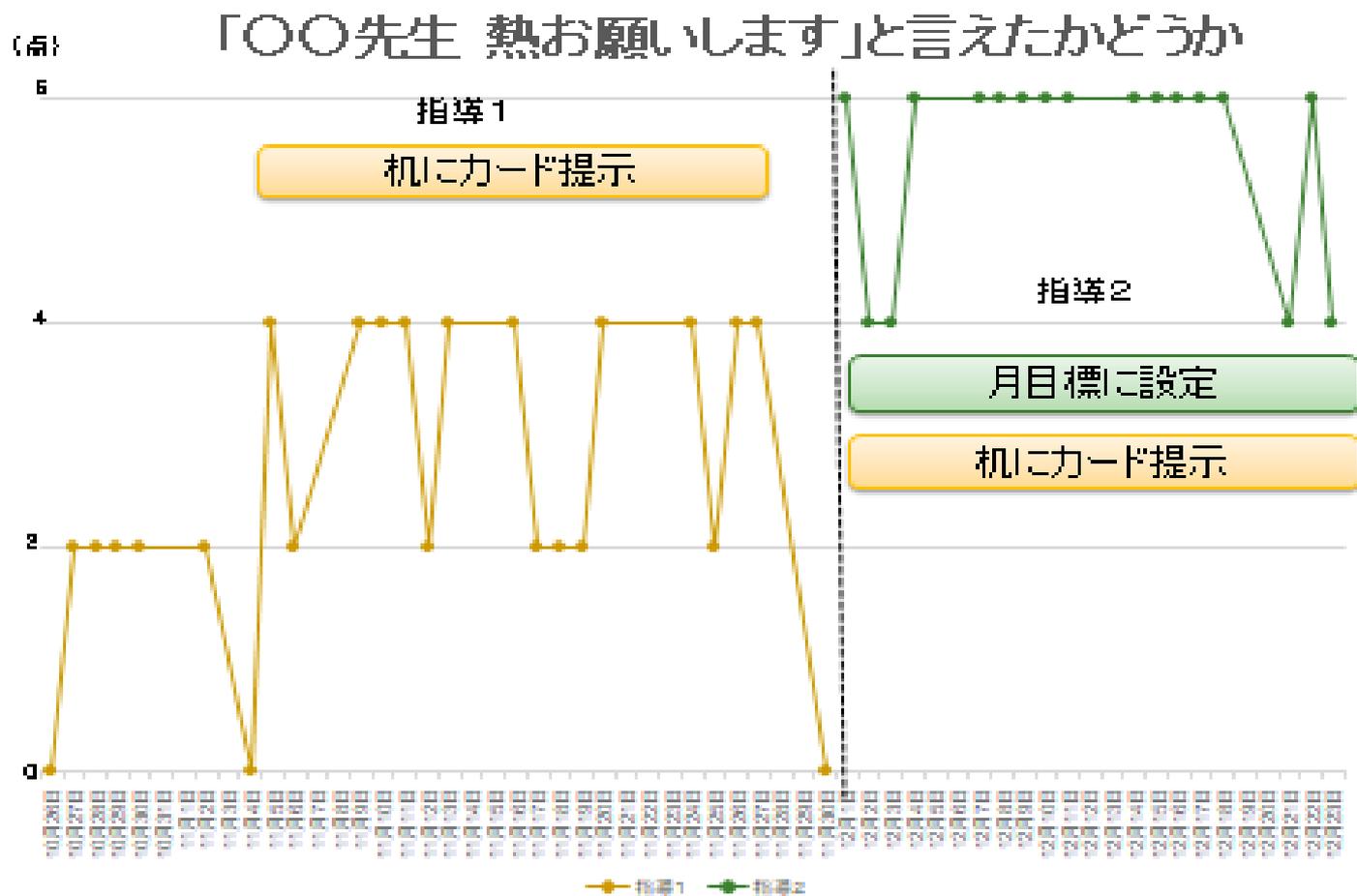
## ①目標

R2 研修会記録用紙	
班	R2 年 12 月 10日
1) 事例について	( 学年          仁チャル表記 A          )
① 目標	( 個別の指導計画・後期の目標を記入 )
丁寧な言葉で要求を伝えることができる。	
② 記録を見てみんなで簡単なグラフにしてみましょう	
③ グラフから読み取れることを考えてみましょう	

## ②記録を見てみんなで簡単なグラフにする



# 作成したグラフ(事例2)



## ③ グラフから読み 取れることを考える

## ④ 目標 (変更・ステップ・現状維持)

## ☆教材教具や環境設定、 教示の仕方

## ☆ほめ方

③ グラフから読み取れることを考えてみましょう

- ・月目標に設定した後の達成率が上がった（本人の意欲の向上もみられる）
- ・登校後にはできてないことが多いが、昼休みや放課後に向けてできるようになっていることが多い。

今後→登校時の時刻も記録し、場面による評価やグラフの色別でより明確にデータを分析する。

④ 目標（変更・ステップアップ・現状維持）

1月に入ってから月目標から外して記録をとる

☆教材教具や環境設定、教示の仕方

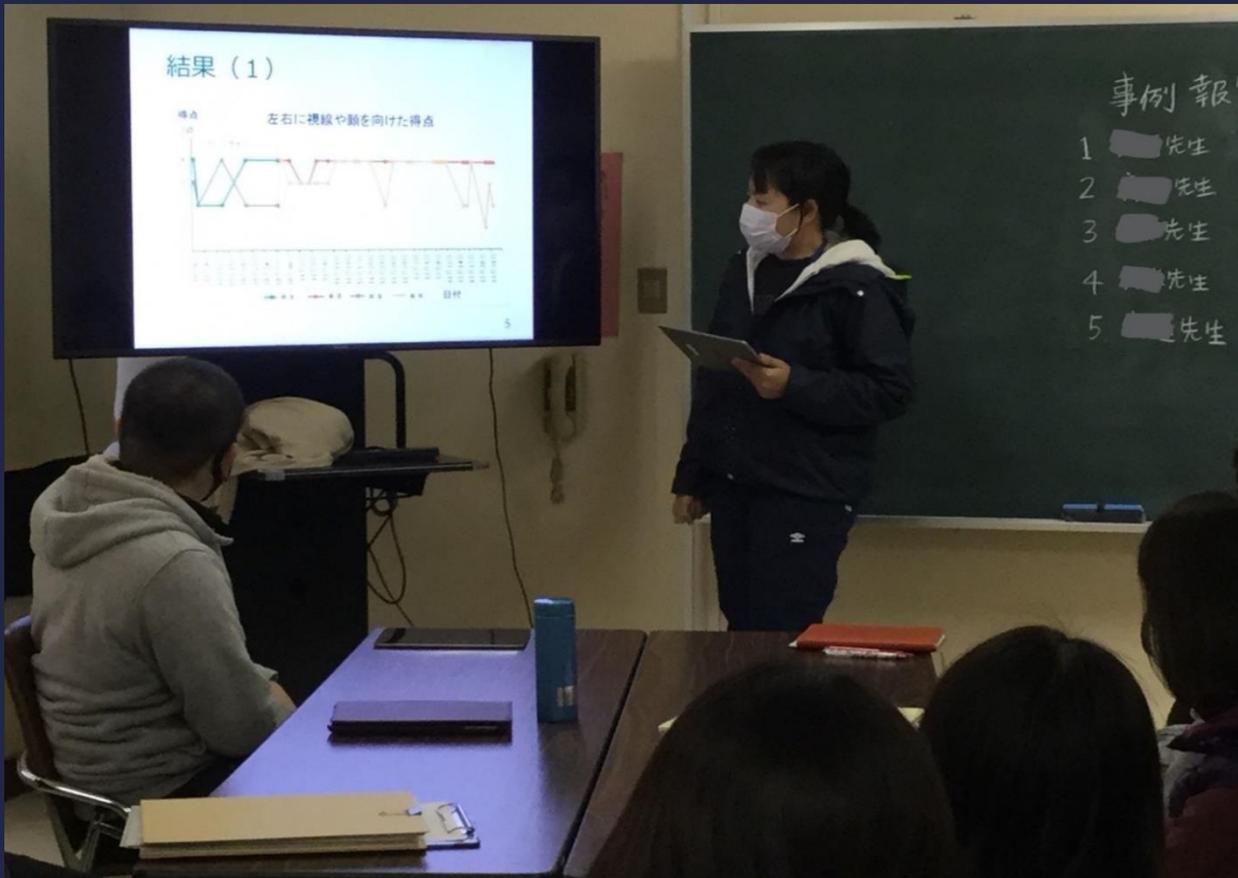
- ・変更なし、月目標の変更

☆ほめ方

- ・達成するとお金と交換することができ、買い物ができる
- ・丁寧な言葉遣いできたときはすぐに褒めると喜ぶ

# ・第3回事例検討会【1月14日】

## 代表事例発表



- ・知的1グループ
- ・知的2グループ
- ・知的3グループ
- ・肢体グループ
- ・自立主グループ

## 〈代表事例の発表者の感想〉



- 事例検討会で具体的な目標（指導場面等）を設定するようにアドバイスを受け、変更すると記録も取りやすく、指導もしやすくなった。
- チームでの話し合いの中で、より指導の結果が分かりやすい得点化の方法やグラフの作り方を教えてもらって勉強になった。
- アドバイスを受けて、記録を取るときに目標にしている行動が何かを明確にすることで評価が◎になった。次の目標や般化場面も考えることができた。
- グラフを作成して生徒の成長を視覚的に確認できてよかった。

## 8 生徒へのフィードバック

### ①「すてきde賞」表彰の様子(学部集会にて)



### ②「すてきな伝え方」の木



2020.11.05



2020.11.20



2020.12.14

# 「すてきな伝え方」の木



## 称賛コメントの例①(抜粋)

### 〈挨拶の場面〉

- ・いつもステキな笑顔で大きな声であいさつできています。  
○○さんの元気なあいさつにいつも元気をもらっています。

### 〈要求・報告の場面〉

- ・学校や校外学習で本がみたいときに、携帯している文字盤を指さして伝えることができました。
- ・自分から「教えてください」と言えるようになりました。

### 〈朝の会や帰りの会の場面〉

- ・朝の会や帰りの会ではきはきと大きな声で司会ができています。
- ・SBSを使って朝の会の司会ができました。

# 「すてきな伝え方」の木



## 称賛コメントの例②(抜粋)

### 〈友だちとのやりとりの場面〉

- ・「大丈夫ですか？」と心配して優しくステキな言葉遣いができています。
- ・友だちが間違えたときに「失敗は誰にでもあるから大丈夫」と優しい言葉をかけてあげることができました。

### 〈いろいろな気持ちを伝える場面〉

- ・「ありがとうございました」「どういたしまして」など人の目を見て丁寧な言葉で言えていました。
- ・自分の思いを言葉で伝えることができています。
- ・ホワイトボードに書いて気持ち等を伝えられるようになりました。

# 9

# 結果

## 1) 個別の指導計画の立案者数(28名)と障がい種割合



## 2)「すてきな伝え方をしよう」に関する 個別の指導計画の評価アンケート(全28名)

- 達成した ◎ (27名)
- できることが多くなった ○ (1名)
- できるようになってきた △ (0名)
- できなかった □ (0名)

達成率 96%



全生徒のコミュニケーション力の向上につながった

# ここがポイント

- 学部全教員で考えた行動目標設定表の活用
  - 同じテーマ(目標)の指導が可能
- 短時間で効率的な話し合い
  - 事例検討会のシステム化  
(記録, 時間設定, ○の行動からの話し合い等)
- 生徒へのフィードバックを行い, 成果を視覚化
  - 褒めて認めてもらうことで自信につながり, 自己肯定感アップ
  - 友だちが褒められていることを見てやる気アップ

